

# 「イエス・キリスト」

## ローマの信徒への手紙 12章1～3節

聖学院大学 人間福祉学部 112D 藤田 奏

みなさんこんにちは、人間福祉学部こども心理学科4年の藤田奏です。

みなさんの前でお話することができ、大学の職員さん、そして神様に感謝いたします。

今日は私の召命についておはなしします。みなさんは証明と聞くとおそらく証明書など真実を明かすという意味の方を考えるとと思います。しかし、キリスト教において召命とは、召し上がると命で召命と書きます。神様の恵みによって神様に呼び出され、キリスト教を伝える使命を与えられるという意味です。つまり、なぜ私がクリスチャンになったのかそれをみなさんにお話したいと思います。

私は父親が牧師、母親が教会オルガニスト、さらに両方の祖父も牧師というクリスチャンファミリーに生まれました。ですから物心つく前から毎週日曜日は教会に行き礼拝を捧げていました。生まれの間もなく私は幼児洗礼を授けられました。

幼児洗礼とは両親の意思で自分の子どもに洗礼を授けることです。将来子どもが心から神様を信じられますようにという両親の願いも含んでいます。

そういう願いもあり、私は日曜日が大好きでした。つまり教会に行くのが大好きでした。なぜかと言うと、教会学校というものがあ、聖書の勉強をします。つまり教会に行けば同年代の子と遊べるからです。そんなわけで遊びが楽しすぎて礼拝の説教を私はちゃんと聞いていませんでした。

ある時父親から今日の説教どうだったと聞かれた時があり、自分はちゃんと答えられませんでした。父親は怒りませんでした、残念そうな顔をしたのを覚えています。その顔を見た時に私は、父親は聖書の話教会に来るひとにわかりやすく話しているのに私はやりたいことしか考えていないということに気づき、なんか申し訳ない気持ちになりました。さらに教会という所は牧師だけでなく教会学校の先生や役員さんなどみんなで教会を支えている、ということにもその時気づきました。イエス様が私たちに与えてくださる無償の愛の如く、教会に奉仕して下さる人がいるということにも気づきました。

そのような経緯があり学年が重なるごとに礼拝の話をちゃんと聞くようになり内容もわかって面白く感じるようになりました。

そして教会の人たちの奉仕の姿をみて私は中学生になってから、地元のボランティア団体に入りました。そして教会の中でベビーシッター的なものをしていました。ボランティアの活動をするなかで、人と人の繋がりの大切さを知りました。つまり一つ一つの出会いを大事にすることの大切さを学びました。この出会いの機会、人と人の繋がりを作ってくださるのが神様なんだと思いました。

そうして高校2年の時に自分の意思で神様を信じますと、イエス・キリストへの信仰を告白しました。今年で信仰告白をしてから5年たちます。この5年間も様々なことがありました。高校2年の3月11日に東日本大震災があり、その後大学に入学してから、教会の方では教会学校の先生になり、今は3歳～6歳の担当をしています。3～6歳はまだ難しい言葉が使えないので、聖書を簡単に説明しなければならぬのでとても難しいですが、毎週楽しく一緒に勉強しています。

そして大学では復興支援ボランティアチーム SAVE に入り復興支援、NSO 実行委員会などで活動しました。大学生になってから多くの出会いがあり、繋がりができました。このように「ボランティア、奉仕活動」が私の召命であると、改めて思います。

これからもイエス・キリストを生活の真ん中とし、残り少ない大学生活を後悔のないよう過ごしていきたいと思います。

主なる神天の父よ、御名を賛美いたします。あなたが私を主の食卓に招いてくださった事を心から感謝いたします。これからも私たちを見守ってください。そしてあなたを見失わないように私たちの心を強めてください。体を悪くしているもの、悩んでいるものに、どうかあなたの豊かな恵みをお与えください。このお祈りを、イエス・キリストの御名によってお捧げいたします。 アーメン

2015年5月20日 聖学院大学 全学礼拝(学生の証し)